

## 研修報告

# 平成19年度 海外研修報告 (1)

## — 第1回看護学部学生海外研修を実施して —

看護学部国際交流委員会

小池 武嗣<sup>1)</sup>, 渡邊 竹美<sup>1)</sup>, 赤松 弥生<sup>1)</sup>, 香月 毅史<sup>1)</sup>,

### 要旨

2007年8月20日～27日の日程で、米国Washington州Seattleにおいて第1回看護学部学生海外研修を実施した。参加者は学生と教員合わせて20名であった。視察施設は、高齢者施設3施設、小児病院1施設、がん患者や家族をサポートする非営利団体施設1施設、合計5施設であった。今回の海外研修に対する満足度は、参加学生18名全員が「満足している」と回答していた。

キーワード：海外研修，国際交流

### I. はじめに

本学部の教育目標には、「国際的な視野を持って活動できる能力を養う」ことを掲げている。そのため2004年4月の学部開設時より国際交流委員会を発足させ、国際交流に関する検討を行ってきた。そして、2006年度に看護学部学生海外研修に関するプログラムが完成し、2007年8月20日～8月27日まで6泊8日の日程で米国Washington州Seattleにて実施した。参加者は、学生が2年生4名、3年生12名、4年生2名の合計18名で、引率教員2名の計20名であった。本稿では、看護学部の学生海外研修プログラムの概要および学生に対して行ったアンケート調査の結果を中心に報告する。

### II. 学生海外研修プログラムの概要

本研修は、①海外体験を通してアメリカの医療・看護に触れる、②国際的視野を広げる、③自己成長を促す、以上の3点を目的とした。研修プログラムは、ワシントン大学の施設見学に始まり、シアトル市内の保健・医療施設の視察を行った(表1)。

また最終日以外は、ワシントン大学内のドミトリーに滞在・拠点とした。視察した施設の概要は、以下の通りである。

【表1】 学生海外研修プログラム

日 程	研 修 内 容
8月20日 (月)	出国手続後、空路 シアトルへ シアトルタコマ国際空港着。 入国手続後、専用バスで市内研修へ ◇「Hansee Austin Theater」にて オリエンテーション
8月21日 (火)	◇ワシントン大学施設見学 ◇午後、大学施設見学 (ガイド案内) 「Health Sciences Open House等」
8月22日 (水)	◇「REGENCY AUBURN REHABILITATION」視察 センター内ツアー+説明、居住者との交流 ◇ワシントン大学にて講演 (講師：Yoriko Kozuki, Associate Professor)
8月23日 (木)	◇「AEGIS OF REDMOND」視察 施設内ツアー+施設に関するQ&A ◇老後施設「EMERALD HEIGHTS」
8月24日 (金)	◇「Cancer lifeline」 視察施設内ツアー+Q&A ◇午後、小児科専門病院 「Children's Hospital & Regional Medical Center」 施設内ツアー+Q&A 「Hansee Austin Theater」にて フェアウエルパーティー
8月25日 (土)	◇シアトル市内自主研修
8月26日 (日)	◇自由行動
8月27日 (月)	成田国際空港着

1) 看護学部

### 1. ワシントン大学の施設見学

ワシントン大学の学生(3年生)の案内によるキャンパスツアー(写真1), および現地ガイドによりヘルス・サイエンスセンターや付属病院を見学した。これらの施設は見学のための“Self-guided Tour”が準備されていた。

### 2. Regency Auburn Rehabilitation

Aegis of Redmond

Emerald Height

これら3施設は、いずれも高齢者施設である。これらの施設では、学生は入所者の方々とアクティビティを楽しんだり、折り紙を用いて一緒に折鶴を作るなど交流を図った。なお、これら施設の特徴は、別稿にて報告する。

### 3. Children's Hospital & Regional Medical Center

今回の研修では、唯一の病院であった。学生は、Infection Control Nurseおよび病棟ナースの説明に熱心に耳を傾け、活発な質疑応答を行っていた。詳細は別稿で報告する。

### 4. Cancer Lifeline

非営利団体で、がん患者やその家族の心理的サポートや情報提供を行う施設である。24時間体制で電話相談を受け付け、栄養やヒーリングアートなど種々のプログラムを準備しサポートを行っている(写真2)。

### 5. ワシントン大学 看護学部Associate Professor Yoriko Kozuki氏による講義

Yoriko Kozuki氏からは、アメリカの保険医療制度および看護教育制度に関する講義を受けた。日本の保険制度や看護教育制度とどのように異なるのか、アメリカの最新の看護教育に関する情報を交え

講義された。さらにYoriko Kozuki氏は、精神看護領域におけるナース・プラクティショナーであり、クリニックにおける看護実践活動にも触れ非常に興味深い講義であった。

## Ⅲ. 研修に対する学生の評価

今回、学生海外研修プログラムの実施にあたり、保護者への案内や学生には年度初めのガイダンスでオリエンテーションを行った。オリエンテーション時の意向調査では、1~4年次生249名中「参加したい」「できれば参加した」103名(41.4%)であった。最終的な参加申し込み者は、18名(2年生4名、3年生12名、2年生2名)であった。また、研修プログラムの実施にあたり、学内で事前学習・ガイダンスを3回実施(渡航手続きを含む)し、参加する学生個々の研修課題や研修目標の明確化を促した。

帰国後にはアンケートを実施した。今回の海外研修に対する満足度は、「とても満足している」8名、「満足している」10名で全員が「満足している」と回答した。また、視察施設別では、「Aegis of Redmond」「Emerald Heights」「Children's Hospital & Regional Medical Center」の3施設は、全員が「興味をもてた」と回答していた(図1)。

## Ⅳ. 参加学生の声

今回の研修に参加した学生の感想を紹介する(許可を得て掲載)。

### (1) 「日本を見る視点が変わりました」 3年次 学生

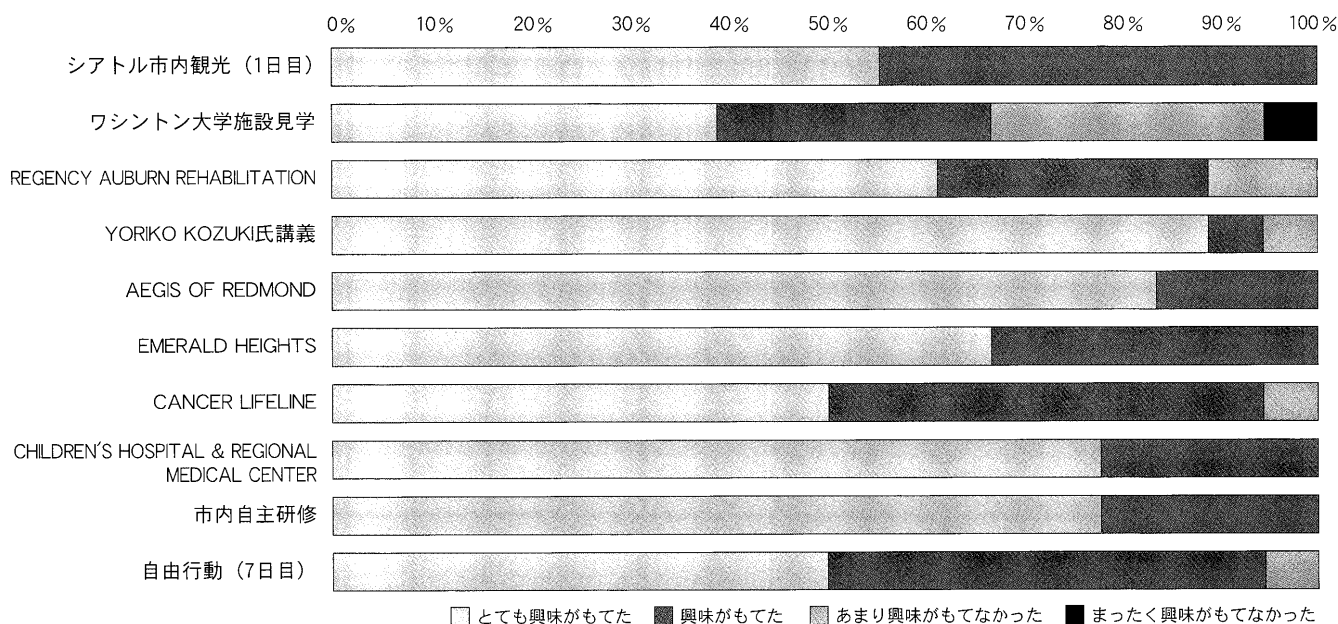
今回の研修では、老後施設や病院などを見学し、その職員の方や入居者の方々との交流で、アメリ



[写真1] ワシントン大学キャンパスツアー



[写真2] Cancer Lifelineにて



カの医療に触れることが出来たのでとても勉強になりました。アメリカの医療制度と日本の医療制度の違いを知り、アメリカが優れていると感じましたがどちらにも利点や欠点があり、すべてを取り入れていくのではなく、国の文化にあった医療を提供していくことが良いことなのだと感じました。アメリカでは日本に比べ看護師が高い位置にいます。日本でも看護師の存在価値がもう少し高くなればいいと思いました。

この研修では、自分たちで積極的に行動し、外出や買い物をするのができたり、他の学年の学生たちとも交流を深めることができよかったですと思います。また、自分自身の日本を見る視点や考え方が変わりました。特に日本の医療や法律のことなどの考え方も変わりました。これから社会に出てからも今回の研修の経験を忘れず、生活していきたいと思えます。

## (2) 「自分に自信が持てました」 4年次 学生

私は日本とアメリカの比較を、研修中にさまざまな角度から考えていました。しかし、どちらが良いのかの答えは出ませんでした。日本の良いところや悪いところも、今回の研修でアメリカの医療事情も含めて実感しました。これからの自分の人生で、私の考え方は変わっていくと思いますが、今の私はダイナミックで楽しさを追及するアメリカの考え方が好きになりました。アメリカには欠点もたくさんあ

りますが、日本の良いところとアメリカの良いところを知り、自分で選択できる大人になりたいと思いました。

以前通っていた英会話教室では勉強不足のため、いつも同じ答えしか先生に返せなくて、英語でコミュニケーションをとることの楽しさも忘れ、とても辛い思いをしました。だけど、今回のアメリカ研修では自分に自信が持て、もっと英語を学びたい、覚えたいと思い、嫌いだった英語が大好きになりました。

研修に参加して、人生で一番楽しく刺激的で、今までの考え方を180度変えてしまうような経験でした。

## V. おわりに

今回の研修では、3日間に5施設の視察とややハードなスケジュールであったが、学生たちは説明に熱心に耳を傾け、活発に質問を行っていた。また、最初は緊張していた学生たちも、日を追うごとに異国の環境・文化に親しむ様子もうかがえ、高齢者施設では、身振り・手振りを交えながら入所者の方々と折り紙で作る折り鶴を通して、国際交流を実感できたのではないかと思われる。初めての海外研修は無事終了したが、種々の課題も明らかになった。

Oversea-Training Report in 2007 part I  
— The 1st Nursing Student Overseas Training Program —

International Exchange Committee, Faculty of Nursing

Takeshi KOIKE<sup>1)</sup>

Takemi WATANABE<sup>1)</sup>

Yayoi AKAMATSU<sup>1)</sup>

Takeshi KATSUKI<sup>1)</sup>

Abstract

The First Student Overseas Training Session was held in Seattle, Washington, in the United States, August 20-27, 2007. There were 20 participants in all, including students and faculty. Visits were made to a total of five facilities: three elderly care facilities, one pediatric hospital, and one non-profit facility providing support for cancer patients and their families. The degree of satisfaction with this overseas training can be judged from the "satisfied" responses given by all 18 student participants

---

1) Faculty of Nursing